

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 25 日現在

機関番号：21301

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H05679

研究課題名(和文) インドネシア現代史の「失われた環」--戦前戦後をつなぐ日本軍政ネットワーク

研究課題名(英文) "Missing Link" in Modern Indonesian History: Japanese Military Networks Connecting between Pre- and Post-War Indonesia

研究代表者

山本 まゆみ (Yamamoto, Mayumi)

宮城大学・基盤教育群・教授

研究者番号：60709400

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、今まで国内外の研究者が限界と考えていた多言語に亘る史資料を精査し、人の繋がりから歴史を紐解くことで歴史の「連続性」を見出すことを目的とした。インドネシア現代史の「失われた環」とされる日本占領期を、軍・官・財・学の人脈やネットワークを探求すべく、当時の史料を相当数収集した。これら史料研究を通じ日本軍政と戦後インドネシア社会との連関を考える研究へと継承した。3年間の本研究実績は、代表者および分担者で、国際学会のパネル発表を29回行った。研究者が発表した書籍総数11本、研究論文14本の出版に加え、国際シンポジウムや国際ワークショップを開催した。国内シンポジウムや国内外で史料展も開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、国家と国家を対立軸に置く単純な構図の歴史観から離れ、人脈やネットワークを中心とし、対峙ではなく影響し社会が適応しながら変容していく歴史を再考した。発掘した史料を英語で発信し、また成果を国際的に共有できる英語で発表することで、言語による研究の困難さから「失われた環」となっていた日本占領期インドネシア史の基盤整理をし、国際的にも研究を推進させる貢献をした。「戦時期」を対立構造とは異なる枠組みでとらえる本研究は、歴史を政争の具とする現在社会へも一石を投じることができ、社会的にも意義があった。

研究成果の概要(英文)：In the modern history of Indonesia, the Japanese occupation period has been often dealt with as the period of divider or "missing link" between prewar and post WWII Indonesia. This project tried to replace the characteristics of Japanese occupation as a meaningless "divider" or "connector," and instead focus on the networks of personal and professional relations in the area of military, administration, business, education as well as cultural spheres. Members of this project collected and examined primary sources; consequently, the project deliberately focused more on postwar Indonesian society and the Japanese occupation period. Some of the activities and results of this project were: 1) one international symposium, 2) one international workshop, 3) two regional symposiums, 4) 29 presentations in the international conferences, 5) 11 book publications, 6) 14 article publications, and 7) 3 exhibitions of materials primarily collected for this project.

研究分野：歴史人類学、インドネシア現代史

キーワード：日本占領期インドネシア研究 植民地研究 日伊関係史 史料研究 インドネシア現代史

1. 研究開始当初の背景

日本占領期インドネシア研究は 1960 年代前後から米コーネル大学を中心に組み立てられた。しかし、日本語資料が最大の障壁となり Benda (1958) や Kanahale (1967) のような例外的な研究者を除くと、Anderson (1972) や Robinson (1995) のように日本語資料の利用が限定的であるが、一部の翻訳資料に依拠するばかりであった。一方、後藤乾一、倉沢愛子ら国内第一人者は、蘭語史料が比較的少ない上、成果の多くを日本語で出版した為、国外研究者への発信が限られていた。オランダでは、言語の問題を抱えると同時に植民地を失った経験と日本占領下の個々人の辛苦が反映した研究が基礎になり (de Jong 1969-1991, van Velden 1963) インドネシアに関しては、史資料の多くを他言語に依拠せねばならず、研究自体あまり発展していなかった。このように、夫々の「偏った」史料や各々の学問背景から構築された日本占領期インドネシア史は、国際研究の場において、その理解に齟齬が生じ、議論を難しくし、近現代インドネシア史において、戦前・戦後との連関が不明な「失われた環」となっていた。また、多言語という障害で、日本占領期インドネシア研究は、次世代研究者から嫌忌され、国際的にもその数が激減し、インターネット社会の中、読み違えられた情報でさえ、あたかも「史実」として跋扈する状況にあった。歴史研究の根拠となる史資料理解の問題は、日本占領期社会が日本対オランダ、日本対インドネシアといった、単純化された 2 極対峙的な政治言説のように捉えられ、植民地時代におこった植民地宗主国に対するインドネシア民族運動さえ、あたかも日本軍政に対して共闘していたかのような構図さえ見え隠れするほどであった。しかし、研究分担者(後藤)の研究した市来竜夫のように、日本占領期にインドネシア祖国防衛義勇軍(PETA)創設に関わり、インドネシア独立戦争に身を投じた日本人もいた。PETA を経て市来と東部ジャワ戦線に参加、後に国軍副司令官になったスミトロもいた。軍関係者で戦後インドネシア経済に関わっていく西嶋重忠やインドネシア協会のメンバーもいた。ガウスが頭山満、徳川義親と親交があり戦後は日本医学と関わりを持っていたことのように、本研究は、日本占領期インドネシアを単純な 2 極対峙的な歴史観ではなく、人脈・ネットワークの凝縮期と捉えなおす試みに発展した。

日本占領期インドネシア研究の言語問題に対する意識は、国外でも共有しており、払拭すべく基盤整備へと努力を見せている。2010 年にはオランダ戦争資料研究所(NIOD)が中心になり、*The Encyclopedia of Indonesia in the Pacific War* を、また今年オランダ CORTS 財団が 5 年という歳月をかけ、防衛研究所監修の『蘭印攻略作戦』を英訳 *The Invasion of the Dutch East Indies* ライデン大学から出版し、盤石な研究の礎を提供した。このように、植民地を失うきっかけとなった日本占領期に関する研究は、オランダでは持続的に行われている。「記憶」の研究が目ざされた 2000 年代には、オランダ王立言語・地理・民族研究所(KITLV)が中心になり、Oral History Project on Indonesia プロジェクトを行った。しかし、「戦史の政治化」が顕著になった過去 25 年の面接聞き取り調査には、政治言説を反映する傾向の記憶もあり、このようなオーラルヒストリーからの歴史再構築は「不透明な歴史」と認識され、史資料の裏付けの必要性があった。言語問題も孕んだ史的に困難な時期であった日本占領期インドネシアは、単にオランダ領東インドが破れ政治が変わったという体制の変化だけではなく、言語的にもインドネシア現代史の中で「分断」された特殊な時期として位置づけられていた。

2. 研究の目的

歴史研究では、政治体制の変化で時間軸を「分断」する傾向がある。インドネシア現代史に関しても、第 2 次世界大戦で歴史の流れを「分断」する研究が通例となっている。しかしながら、人脈やネットワークから歴史を通観すると「分断」ではなく「連続性」を見出せる。

本研究は、日本占領期インドネシアを、人脈・ネットワークの凝縮された時期と捉えなおし、戦前からの軍・政・官・財・学ネットワークが、戦後の日伊の関係にどのような影響を与えたか検証することを目的とした。本研究では、占領期研究を最も困難にしている日・蘭両語史料も網羅、一部翻訳及び成果を英語で発表することで、言語という研究基盤の「技術面」でも国際貢献し、日本占領期インドネシア研究を国際的に共通した場に位置付け、新たな研究を促すことも目的とした。

3. 研究の方法

本研究の方法は、歴史研究の定石である一次史料の調査・分析を主とした。史資料調査は、国内、オランダ、インドネシアおよびイギリスの各国立公文書館および国立図書館、資料研究所などで実施し、必要に応じて海外の研究協力者にその調査依頼を行った。調査で発掘した史料の分析をするとともに、国内外の研究者にとっての、多言語史料研究の難しさを克服するため、日本語史料の一部を英訳あるいはインドネシア語訳に、またオランダ語史料の英訳を推し進め、国際研究交流を促進する環境整備を試みた。

研究の眼目でもある、戦前と戦後の連続性を日本占領期インドネシアの人脈やネットワークから明らかにするという本研究は、史資料の中でも特に、日本占領期のインドネシア軍政に関係者、企業、外交、医療、芸術に関する人脈およびネットワークに着目し、当時の新聞雑誌の記事を精査することで、検証することを進めた。

史料の中には、文書のみではなくこれまでの研究者が面接聞き取り調査をした記録も、本研究

開始時点では含めていた。早稲田大学西嶋コレクション所蔵の1970年代に録音された日本占領期インドネシア関係者インタビュー記録、1980年代に日本占領期インドネシア研究者が行った日本軍政関係者へのインタビュー記録などの一部を収集した。しかしながら、インタビュー記録は、調査者と調査対象者のラポールが如何なるものか、また当時の政治や時代の空気がどのように、インタビュー内容に反映したか等の背景の分析も必要になり、日本占領期インドネシア研究史料としては、更なる調査・分析が必要となった。例えば、ジャカルタ国立公文書館所蔵の軍政期に関するインタビュー記録は、1975年に収集されたものであり、当時のスハルト政権下において、どのように Oral History Project が企画され、だれがどのように指揮し面接聞き取り調査をしたのかという背景を知らずに、調査内容を文書史料に代わる或いは同等の歴史史料と捉えることの問題に直面し、本研究において断念せざるを得ない状況になった。

研究を進めていくにつれ、日本占領期インドネシア当時に出版された新聞・雑誌が、紛失・散在あるいは保管状況が悪く劣化していることが判明した。研究当初これらの文書は写真撮影で、デジタルとして補完する予定であったが、研究期間途中に、可能な限り収集することに方向に転換した。ほかの史料としては、軍政期および戦後の映像・録音を発掘保全し、映像・録音に係った人々の技術の継承や、日・イの人々の繋がりを精査している。また、NIOD 所蔵、戦後オランダが没収した戦中インドネシア在住日本人の日記を社会状況および人間関係を中心に精査、抜粋を英語にする作業も進め、占領下の人脈・ネットワーク体系図の基礎データを纏めている。

4. 研究成果

日本語、オランダ語、インドネシア語等の1930年代～50年代までに出版された多言語史資料調査研究から、日本軍政期の人脈やネットワークを中心にインドネシア現代史の連続性を戦前から戦後に至るまで検証する本研究は、史料調査および国際的な研究発表、さらに海外の学者との学術交流と共同研究が特徴的なプロジェクトであった。

史資料調査に関しては、本研究初年度（平成28年度）から国内外の文書館調査のみならず、古書店等で収集してきた。収集した史料は、平成29年度には宮城大学における公開シンポジウムの際、展示公開してきた。本研究期間の終了後の令和元年6月には、インドネシア文化庁及び在日インドネシア大使館主催の「日本占領期インドネシア史料展」でその一部を出品し、当時の史料現物展示の90%が本研究分担者および代表の成果であり、社会貢献の一環として取り組んできた。文書館に保存されている史料の所蔵状態や保管の問題もあり、また今後デジタル化する際の法的問題を少なくすることを考え、代表および分担者（特に Horton、高地）が積極的に当時の出版物を入手することを試みた。研究期間に収集した主な文書は以下のとおりである。新聞：Asia Raya (Jakarta) 497日分、Pewarta Perniagaan (Surabaya) 58日分、Pembangoen (Jakarta) 229日分、Kung Yung Pao (Jakarta) 230日分、Sinar Baroe (Semarang) 53日分、Suara Asia (Surabaya) 66日分、Tjahaja、他軍政監部発行のジャワ語の新聞24日分。雑誌：Pandji Poestaka (1942～1943) 1942年発行の半分程度、1943年発行は概ね収集。Berita Ketabiban および戦前戦中の医学雑誌。戦時下ジャワのイスラム教雑誌 Soeara MIAI 1942年後半～1943年半の一部。その他：日本占領期出版書籍は140冊収集。国内外の研究者にとって重要な史資料の一部公開を見据え、英語・日本語のホームページ (<http://lapangan.net/ring/>) も開設した。これら収集した史料のほか、研究期間中に研究分担者後藤乾一が『復刻版ジャワ新聞』を解題執筆・監修し出版した。また、研究分担者倉沢愛子はインドネシア語で当時の日本語公文書を紹介した Bibliografi Beranotasi: Sumber Sejarah Masa Pendudukan Jepang di Indonesia [要約つき史料目録：日本占領期インドネシア史資料] を、研究代表および分担者も協力し出版した。これらの史料を紹介した出版物のほか、研究期間中に論文14本（4本英語）、図書11冊（6冊英語或いはインドネシア語）を出版した。

研究の国際的発信及び国際学術交流は、国際学会発表、国際ワークショップ、また公開シンポジウムを通じ行った。本研究が主催した国際公開シンポジウムおよび国際ワークショップは、研究の初年度にあたる平成28年度から始め、参加研究者とその後の研究交流および共同研究を促進させた。10月にシドニー大学の Hans Pols 教授を招聘し、国際シンポジウムを国立政策大学院大学（東京都港区）で開催。基調講演で日本占領期インドネシアのジャカルタ医科大学に関する講義を行った。シンポジウムでは軍政期の医療を核としながらも、政治や戦後経済についても、発表した。以下が発表者と題目である：Hans Pols, “Collaboration, Opportunism, and Resistance: Indonesian Physicians during the Japanese Occupation,” 山本まゆみ（研究代表者）“Men, ‘Do not Approach the Dangerous!’ : Life in Java from Medical Reports and Living Guidebooks,” William Bradley Horton（研究分担者）“From Shadow Works to the Front Line: Japanese Nurses in Indonesia under Japanese Military Administration,” 山崎功（研究分担者）“Kurume-Jakarta-Palembang: Adventurous Wartime Explorations of Bridgestone and the Kurume Medical School” モデレーターには会場となった国立政策大学院大学に所属し本研究の研究分担者でもある Jafar Suryomenggolo、そしてコメンテーターとして CEAS-Yusof Isyak Institute（シンガポール）の東南アジア学術誌 SOJOURN 編集長 Michael Montesano 氏が参加した。平成29年度は、インドネシア日本軍政ネットワークの連続性が続いていたと、本研究で仮説をたてた東西冷戦期、特に日本軍政と緊密な関係を持っていたスカルノ政権の終焉 1960年代半ばまでの時期を解題の中心に据え平成30年2月に *The End of the*

Postwar Indonesian Regime: Knowledge Production and Indonesia's Foreign Interactions in the 1950s-60s と題し、国立シンガポール大学 Douglas Kammen 教授を基調講演者として招聘し、Special Workshop on the History of Modern Indonesia を国立政策研究大学院大学で開催した。本研究から Horton, William Bradley、高地薫、山本まゆみの3名が研究発表し、モデレーターとして Jafar Suryomenggolo が参加した。

国際シンポジウムやワークショップのほか、国際学会発表で海外の研究者とともにパネル発表を行い、研究交流と協力が引き続き行われるのみならず、本研究の国際発信の場としても効果をあげた。平成28年度に、University of Michigan-Ann Arbor 名誉教授で戦後インドネシアの政治史が専門の Rudolf Mrazak、マレーシア大学特任教授で言語学者 Jim Collins、米国 Augusta University 教授/歴史学部長 Andrew Goss が参加しパネル発表をした。平成28年6月に日本国内で開催された国際学会 (AAS-in-ASIA) のパネルで Mrazak, Collins, 山本、Horton が発表し、日本占領期の医療政策を軍政監部および医療部隊作成の出版物から考察する発表を行った。特に Collins は、日本軍政期に出版した日伊辞書は、戦前のオランダ語・インドネシア語の辞書がそうだったように、英語・インドネシア語の辞書を範にしていることを紹介した。さらに分析を続け、戦前との辞書のわずかな違いが、日本占領期インドネシアの特性を表す可能性があることを指摘した。平成29年3月には、トロントで開催された米国アジア学会の年次総会でもパネル発表を行い、山本、Horton、高地という本研究メンバーに加え、Andrew Goss 教授/歴史学部長も参加し、医療から明らかになる日本占領期とオランダ植民地時代の連関を、医学研究を山本が、マラリア治療などの看護体制をホートンが、そして医療啓発映画に見られる衛生政策を高地が担当し、戦前と戦中のキニーネ製造について Goss が経済史の立場から研究発表した。本研究の主眼である日本占領期インドネシアの戦前戦後への継続性は、エリートネットワークや人脈を中心に考えていたが、研究初年度に焦点を当てた医療から、むしろ軍政の医療政策、軍医の人脈および医療知識という面で、政・財・官・学を網羅できることが判明した。この研究は深化させ、平成29年8月にオックスフォード大で開催された Euroseas にて研究代表(山本まゆみ)及び分担者(Horton, William Bradley)が占領期の医療に関する発表を引き続き行い、平成30年7月にも、ジャカルタで開催された HOMSEA[東南アジア医療史学会]と ASM[医療史アジア学会]が共催した総会で、本研究で学術交流をしている Pols, Collins とともにパネル発表した。

一方、戦前戦中のインドネシア在留日本人および軍人の人脈を研究する過程で、日本国内の特定の地域とインドネシアの関りも見いだされた。沖縄に着目した研究を進め、今後の日本の地域社会とインドネシアの結びつきの研究へ発展する糸口もつかった。このことは、後藤乾一が「戦前期沖縄とインドネシア 又吉武敏の『南方関与』を事例に」(平成29年度)で提示している。また、人脈を辿っていく研究は、政・財を中心に研究を進め、史料分析からインドネシアと日本の人脈には、地域性を見出すこともできた。この違いは、本研究初年度の平成29年1月に研究分担者山崎功が佐賀県立九州陶磁文化館において開催したミニ・地域シンポジウム「佐賀・九州から見た近代日本の南方関与」と、平成30年11月に宮城大学で開催した「近代日本を拓いた東北人の南方『外交』」と題したシンポジウムで明らかになり、地域による南方への関りの違いが、それぞれの地域と南方渡航や海外渡航の歴史の違いに深い関係性があると仮定付け、将来新たな研究として発展させることができることも判明した。

「インドネシア現代史の『失われた環』 戦前戦後をつなぐ日本軍政ネットワーク」研究から、政治体制の変化で「分断」が生じることより、新しい体制が、前体制を範に「継続性」を残し新体制へ移行しながら変容を遂げていくことが詳らかになった。特に、3年強という短期間であるが凝縮した日本占領期は、その変容が定着する時間もなく、新たな時代である戦後インドネシアへ、移行し「継続」する「遺産」を残したとも考えられる。この点に着目し、本研究は、平成31年(令和元年)度の継続研究として戦後インドネシア社会に注目し、日本占領期を、独立後のインドネシアの播種期と捉えなおし、日本占領期の軍の人脈、教育、文化・社会活動が、戦後インドネシア社会に与えた影響を検証することを目的とした「インドネシア現代史『失われた環』 日本軍政から見た戦後の社会」に引き継いだ。

<引用文献>

- ・ Anderson, Benedict R. O'G. 1972. *Java in a Time of Revolution: Occupation and Resistance, 1944-1946*. Ithaca: Cornell University Press.
- ・ Benda, Harry J. 1958. *The Crescent and the Rising Sun: Indonesian Islam under the Japanese Occupation, 1942-1945*. The Hague: van Hoeve.
- ・ Jong, L. de. 1969-1991. *Het Koninkrijk der Nederlanden in de Tweede Wereldoorlog*. Den Haag, Leiden: M. Nijhoff, Staatsuitgeverij.
- ・ Kanahela, George S. 1967. *The Japanese Occupation of Indonesia, Prelude to Independence*. Dissertation, Cornell University.
- ・ Robinson, Geoffrey. 1995. *The Dark Side of Paradise: Political Violence in Bali*. Ithaca: Cornell University Press.
- ・ *The Encyclopedia of Indonesia in the Pacific War*. 2010. Edited by Peter Post, et al. Leiden: Brill.

- *The Invasion of the Dutch East Indies*. 2015. Translated by Willem Remmelink. Leiden: Leiden University Press.
- Velden, Doetje van. 1963. *De Japanse interneringskampen voor burgers gedurende de Tweede Wereldoorlog* [The Japanese civil internment camps during the Second World War]. Franeker: Wever.
- 倉沢愛子、1992年、『日本占領下のジャワ農村の変容』東京：草思社
- 後藤乾一、1989年、『日本占領期インドネシア研究』東京：龍溪書舎

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 後藤乾一	4. 巻 第34号
2. 論文標題 「図南・服部徹の思想と行動」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 31-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 後藤乾一	4. 巻 第36号
2. 論文標題 「明治期小笠原諸島の産業開発と鍋島喜八郎」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 57-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 後藤乾一	4. 巻 第46号
2. 論文標題 「勢理客文吉 = イスマイル・B・セリキヤクの歷程」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 沖縄文化研究	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Horton, William Bradley	4. 巻 Special Issue
2. 論文標題 "A Fictional Detective's Exploration of the Swirling Maelstrom of Indonesia in the Early 1940s: Patjar Koenig and the Mysterious Death of Moh. Hoesni Thamrin"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Indonesian Studies (Monash)	6. 最初と最後の頁 93-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Jafar Suryomenggolo (ed.).	4. 巻 7(1)
2. 論文標題 "Rereading Leftist Writings from Southeast Asia"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Southeast Asian Studies	6. 最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高地 薫	4. 巻 7号
2. 論文標題 「インドネシアから考える民主主義 自らを見つめ直す鏡としての「他者」の政治」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 グローバル・コミュニケーション研究	6. 最初と最後の頁 93-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤乾一	4. 巻 29号
2. 論文標題 「ジョン万次郎・平野廉蔵と小笠原諸島 - 幕末維新期の洋式捕鯨をめぐる一考察」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後藤乾一	4. 巻 5
2. 論文標題 「『ジャワ新聞』改題」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 復刻版 ジャワ新聞	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤乾一	4. 巻 33号
2. 論文標題 「戦前期沖縄とインドネシアー又吉武俊の「南方関与」を事例に」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 1 - 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 倉沢愛子	4. 巻 91号
2. 論文標題 「九・三〇事件とインドネシアの華僑・華人社会 レスプブリカ大学襲撃事件から見えること」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジアアフリカ言語文化研究	6. 最初と最後の頁 25 - 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 倉沢愛子	4. 巻 3月号
2. 論文標題 「『大東亜』戦争期東南アジアの物流の破綻」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想 特集=物流スタディーズ	6. 最初と最後の頁 136 - 148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Horton, William Bradley	4. 巻 1
2. 論文標題 "Rahmat Yang Tidak Ternilai Harganya": Balai Pustaka dan Kesehatan Umum (1910an-1945) [「測り知れぬ恩恵」 - バライ・プスタカと公衆衛生、1910年~1945年]	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 SeratusTahun Balai Pustaka	6. 最初と最後の頁 109 - 124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Horton, William Bradley	4. 巻 29号
2. 論文標題 「ギィ・ポーカーと1950～1970年代のアメリカ インドネシア関係」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 85 - 104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本まゆみ	4. 巻 11
2. 論文標題 "Heritage and Diplomacy: A Cultural Approach to UNESCO's Document Registry Program in East Asia"	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 文化人類学年報	6. 最初と最後の頁 7-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計29件(うち招待講演 17件/うち国際学会 16件)

1. 発表者名 Yamamoto Mayumi
2. 発表標題 Prevention of Terminal Tropical Illness: Japanese Medical Studies for the War
3. 学会等名 HOMSEA [History of Medicine in Southeast Asia]/ASM [Asian Society of the History of Medicine] Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Horton, William Bradley
2. 発表標題 'Kehidoepan Njamoek Malaria' and 'Obat-Obatan Asli': Wartime Public Health Efforts seen through Indonesian Print Materials on Java
3. 学会等名 HOMSEA [History of Medicine in Southeast Asia]/ASM [Asian Society of the History of Medicine] (国際学会)
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Horton, William Bradley
2 . 発表標題 Pembatja &Taman Batja: Sebuah Sejarah Singkat Perpustakaan Populer di Hindia Belanda [Readers and Lending Libraries: A Short History of Popular Libraries in the Netherlands Indies]
3 . 学会等名 Cultural Heritage Workshop (Andalas University) in Padang (招待講演)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Horton, William Bradley
2 . 発表標題 "keynote Speech" Penulisan Sejarah yang tidak dapat Ditulis: Pendekatan Baru untuk Memahami Jaman Jepang [The Writing of History which can ' t be Written: New Approaches to Understand the Japanese Occupation]
3 . 学会等名 Padang State University (招待講演)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Horton, William Bradley
2 . 発表標題 Patjar Koening dan Misteri Kematian Thamrin: Sastra Populer Terbitan Jogja pada tahun 1930an-1940an [Patjar Koening and the Mystery of Thamrin ' s Death: Popular Literature published in Jogja in the 1930s-1940s]
3 . 学会等名 General Lecture at General Lecture at Gadj Mada University in Jogja (招待講演)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Horton, William Bradley
2 . 発表標題 Berkembangnya Sastra Populer di Indonesia: Beberapa Contoh dari Tahun2 Terakhir Jaman Penjajahan The Development of Pop Lit in Indonesia: A Few Examples from the Final Years of the Colonial Period
3 . 学会等名 Special Lecture at the Ministry of Education, Body for Language and Book Development (招待講演)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 Kurasawa, Aiko
2. 発表標題 “ Hubungan Indonesia-Jepang pada tahun 1945-1957 ”
3. 学会等名 Seminar on Hubungan Indonesia Jepang dalam Alam Kemerdekaan dan Persahabatan (1945-2018) at Perpustakaan Nasional Indonesia in Jakarta, Indonesia (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kurasawa, Aiko
2. 発表標題 “ Apakah Aku onderdaan Belanda?: Nasib dan politisasi mahasiswa Indonesia di Jepang pasca kekalahan Jepang tahun 1945 ”
3. 学会等名 International Seminar on Indonesia-Jana History: Connection and Comparison at Makassar, Indonesia (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本まゆみ
2. 発表標題 Adapting to the Tropics: Japanese Medical Survey and Practical Handbooks in Wartime Java
3. 学会等名 EuroSEAS (Oxford University) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本まゆみ
2. 発表標題 Geertz, Complicit Academia, and American Cold War paranoia
3. 学会等名 Special Symposium on the History of Modern Indonesia (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Horon, William Bradley
2. 発表標題 Health for Indonesians: Public Activities of Japanese medical Practitioners and Public Health Efforts through Indonesian Print Materials
3. 学会等名 EuroSEAS (Oxford University) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Horton, William Bradley
2. 発表標題 Patjar Koening and the Mysterious Death of Moh. Hoesni Thamrin: A detective's exploration of the swirling maelstrom of Indonesia in the early 1940sf
3. 学会等名 "All Lows, No High: A Comparative study of Indonesia and Malaysian Crime Fiction" Monash University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Horton, William Bradley
2. 発表標題 The Return of "The Romanian": Guy Pauker and the Late 1900s
3. 学会等名 Special Symposium on the History of Modern Indonesia (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 倉沢愛子
2. 発表標題 Japanese Occupation in Indonesia (1942-1945)
3. 学会等名 廈門大学 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 倉沢愛子
2. 発表標題 インドネシアの9・30事件から解き明かす1960年代アジアの国際関係
3. 学会等名 南山大学(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 倉沢愛子
2. 発表標題 Bahan-bahan Sjarah pendudukan Jepang de Indonesia yang ada di Jepang
3. 学会等名 Dirjen Kebudayaan, Kementerian Pendidikan(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 倉沢愛子
2. 発表標題 Changing Community Network in Rural Village and Urban Kampung: Historical Review
3. 学会等名 LIPI(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 倉沢愛子
2. 発表標題 Bahan-bahan Sejarah Pendudukan Jepang de Indonesia yang ada di Jepang
3. 学会等名 International Seminar "Building Collaboration and Network in a Globalized World"(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高地薫
2. 発表標題 The Indonesian Military-Academic Nexus: Nugroho Notosusanto and General Suwanto
3. 学会等名 Special Symposium on the History of Modern Indonesia (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamamoto Mayumi
2. 発表標題 Registering Historical Spats: The Politics of UNESCO's Document Registration Program in Asia
3. 学会等名 Heritage as Aid and Diplomacy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Horton William Bradley
2. 発表標題 From Shadow Work to the Front Line: Japanese nurses in Indonesia under Japanese military administration
3. 学会等名 AAS-in-Asia 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yamamoto Mayumi
2. 発表標題 Men, 'Do not Approach the Dangerous!': Japanese Life in Java from Medical Reports and Living Guidebooks
3. 学会等名 AAS-in-Asia 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1 . 発表者名 Yamamoto Mayumi
2 . 発表標題 Bittersweet Flowers in Java: VD and Prostitution in the Transitional Period from Dutch to Japanese Rule
3 . 学会等名 AAS Annual Meeting 2017 (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Horton, William Bradley
2 . 発表標題 Kangofu or perawat: The fluid profession of nursing in wartime Java
3 . 学会等名 AAS Annual Meeting 2017 (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Kochi Kaoru
2 . 発表標題 From Hollywood Flicks to Eradicating Malaria and Visiting the Doctor: Screening Films in Indonesia during the Japanese Occupation
3 . 学会等名 AAS Annual Meeting 2017 (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Horton, William Bradley
2 . 発表標題 Patjar Koening and the mysterious death of Moh. Hoesni Thamrin: A fictional detective 's exploration of the swirling maelstrom of Indonesia in the early 1940s
3 . 学会等名 All Lows, No Highs: A Comparative Study of Indonesian and Malaysian Crime Fiction (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1. 発表者名 Yamamoto Mayumi
2. 発表標題 Adapting to the Tropics: Japanese Medical Surveys and Practical Handbooks in Wartime Java
3. 学会等名 EuroSEAS (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yamazaki Isao
2. 発表標題 Local Doctors Go South: Wartime survival & postwar expansion of the Kyushu Medical School
3. 学会等名 EuroSEAS (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Horton, William Bradley
2. 発表標題 Health for Indonesians: Public activities of Japanese medical practitioners and public health efforts through Indonesian print materials
3. 学会等名 EuroSEAS (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 Kurasawa, Aiko	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Direktorat Sejarah, Direktorat Jenderal Kebudayaan, Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan RI	5. 総ページ数 213
3. 書名 " Hubungan Indonesia-Jepang pada tahun 1945-1957 " in Hubungan Indonesia dan Jepang dalam Lintasan Sejarah	

1. 著者名 Horton, William Bradley and Mayumi Yamamoto	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Jakarta: Komunitas Bambu	5. 総ページ数 224
3. 書名 Pahlawan dari Batavia: Narasi Pieter Erberveld Melawan Kompeni / The Hero of Batavia: Discourses on the Rebellious Pieter Erberveld	

1. 著者名 Jafar Suryomenggolo (ed.).	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Copenhagen: NIAS Press	5. 総ページ数 208
3. 書名 At a Moment's Notice: Indonesian Maids Write on Their Lives Abroad	

1. 著者名 Kurasawa, Aiko	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Jakarta: Direktorat Sejarah, Direktorat Jenderal Kebudayaan, Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan RI	5. 総ページ数 268
3. 書名 Sumber Sejarah Masa Pendudukan Jepang di Indonesia	

1. 著者名 Jafar Suryomenggolo	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Oxon: Routledge	5. 総ページ数 222
3. 書名 "Democratization and Religious NGOs in Indonesia." in Middle Class, Civil Society and Democracy in Asia, edited by Hsin-Huang Michael Hsiao	

1. 著者名 倉沢愛子、柳沢遊（共編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 488
3. 書名 日本帝国の崩壊 人の移動と地域社会の変動	

1. 著者名 後藤乾一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 龍溪書舎	5. 総ページ数 約20頁
3. 書名 「解説」、『ジャワ新聞』	

1. 著者名 山崎功	4. 発行年 2017年
2. 出版社 海鳥社	5. 総ページ数 102頁
3. 書名 佐賀・九州の南方開拓者たち	

1. 著者名 倉沢愛子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 慶應義塾出版会	5. 総ページ数 約20頁
3. 書名 第5章「戦争に翻弄された南方移民 「帝国」の解体の背後で」、『日本帝国の崩壊 人の移動と地域社会』	

1. 著者名 Horton, William Bradley	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Institute Kajian Etnik	5. 総ページ数 約20頁
3. 書名 "Patjar Koenig and the Mysterious Death of Moh. Hoesni Thamrin: A Glimpse into ghe Swirling Maelstrom of Indonesia in the Early 1940s" in 『Bukit Sama Didaki: A Festschrift in honor of Professor Emeritus James T. Collins yang ke-70』	

1. 著者名 Aiko Kurasawa (eds)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Direktorat Sejarah, Direktorat Jenderal Kebudayaan, Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan	5. 総ページ数 268
3. 書名 Bibliografi Beranotasi: Sumber Sejarah Masa Pendudukan Jepang di Indonesia	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>インドネシア現代史の『失われた環』 The "Missing Link" of Modern Indonesian History http://lapangan.net/ring/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	倉沢 愛子 (Kurasawa Aiko) (00203274)	慶應義塾大学・経済学部(三田)・名誉教授 (32612)	

6. 研究組織(つづき)

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	Horton William. B (Horton William Bradley) (00625262)	秋田大学・教育文化学部・准教授 (11401)	
研究分担者	高地 薫 (Kochi Kaoru) (30345178)	神田外語大学・外国語学部・講師 (32510)	
研究分担者	スリヨメンゴロ ジャファール (Suryomenggolo Jafar) (40600440)	政策研究大学院大学・政策研究科・助教授 (12703)	
研究分担者	山崎 功 (Yamazaki Isao) (60267458)	佐賀大学・芸術地域デザイン学部・教授 (17201)	
研究分担者	後藤 乾一 (Goto Ken'ichi) (90063750)	早稲田大学・国際学術院(アジア太平洋研究科)・名誉教授 (32689)	